

聖霊の宮殿

鍵となる節：「あなたがたは知らないのか。あなたがたの体は、あなたがたのうちにいて、あなたがたから与えられた聖霊の神殿である。あなたがたは自分のものではない。」
コリント人への第一の手紙6:19

選んだ聖句：
コリント人への第一の手紙6章12節～20節

本日の授業で引用された聖句は、使徒パウロがコリントの教会に存在していた不道德について述べたものです。「あなたがたの誇りは良いものではありません」と彼は書きました。（コリント人への第一の手紙5:6）彼らは、そのような状態を容認する原因となっている偽りの兄弟愛に誇りを持っていたようです。

パウロが注意を促した一人の罪人について、彼は教会がその人を交わりから追放すべきだと命じました。パウロはこの行為を、彼らの間から「酵母」を排除する行為として表現しました。（2-7節）聖書

において酵母は、何らかの形で罪の象徴として用いられています。

主の民の集いの中に不道徳が存在することは、おそらく奇妙に思えるかもしれませんが、コリントの（異邦人）の一部がキリストを受け入れ、その民に結びついた人々の過去の習慣を考慮すれば、そうでもありません。コリントの一般市民は異教の神々を崇拝していました。その中でも、ギリシャとローマの愛の女神、アフロディテとビーナスが特に崇拝されていました。彼らの以前の崇拝に不道徳が組み込まれていたため、コリントの教会の一部の人々は、当初、それに対して同じ程度の軽蔑を抱かなかったかもしれません。しかし、そのような寛容さは神の意志に完全に反するものであったため、パウロは混乱を是正するために断固とした措置を講じました。

しかし、この不正に対する反対の立場は、パウロが愛から取ったものでした。彼はこのことをコリントの教会への第二の手紙で明らかにしています（コリント人への第二の手紙2章1節から11節）。パウロはこれらの兄弟たちを訪ねる計画を立てており、その機会の喜びを損なうものを何一つ望んでいませんでした。彼は、自分が促したように不正を働いた者に対して行動を起こした教会を称賛しました。また、その個人が教訓を学んだことも考慮しました。彼

を悲しませることを避けるため、パウロは教会に、彼を赦し、交わりに回復させるよう提案しました。教会がこの措置を取れば、パウロは彼らと共に喜びを分かち合うと説明しました。このように、パウロは不正を正すことを望んだだけでなく、不正を犯した者が赦され、回復されることも望んでいたことがわかります。

私たちの鍵となる聖句は、体が「聖霊の宮」であり、私たちの中に存在すると述べています。神殿は、ユダヤ人と異邦人双方に広く知られていた。イスラエルでは、神殿は象徴的に神と民の出会いの場とされていた。イスラエルの敬虔な者たちは、それを聖なる場所として崇め、忠実な者たちはその状態を維持するよう努めた。しかし、悪しき王の支配下で、神殿は壁の中に偶像崇拜が設けられ、汚された。

新約聖書では、神殿の象徴が二つの意味で用いられています。一つ目は今日の聖句で、パウロが各信者の肉体を「神殿」と呼び、聖霊によって神が住む場所として、清く汚れないように保つべきものとして説明しています。二つ目の神殿の比喻は、使徒ペテロによって提示されています。彼は次のように書きました。「あなたがたもまた、生きた石として、霊的な家として築き上げられている。」(1ペテロ2:5)。ここでは、各献身的な信者は、神の国における霊

的な「家」または「神殿」の一部となるために準備されている「石」として語られています。 - ヘブル人への手紙**3:6** ; エペソ人への手紙**2:19-22** ; マタイ**6:10**